



—— 妙義山がだいすきだった書家であり画家、中村不折 ^{ふせつ} ——

中村不折? たれそれ? (???)

って思っただけでしょう。そう思っただけあなたも絶対に彼の書を見たことが"あはは"。

新宿 中村屋

このロゴでございませう!!
他にもいろいろあひんてすが、まあそれは



一度おいとして。不折の味のある書も大女子みななのですが、今回は彼の絵を紹介いたします。

^{たしえ}挿絵画家としても活躍していた不折の絵はなんともさらりとユニークどころとも素直なもののですが、そんなゆき系会に反して彼はけっこうな登山家でもあったようですよ。

なにせあの **妙義山** にさらりと登っていらしゃる...!!

そのストックさには彼の画集からも読みとれます。 (ガーン)

クマガサヤススキにつかまて手を血だらけにして一時間半ののぼり。やがて正面の絶壁に肝を冷やし迂回して背面攻撃。鉄鎖2条をしばらくのぼる。絶頂は広さ2間くらい。断崖千尺は支那の昔の形容だが、金洞の最高峰はそれよりも、とけわしい。 — 金洞山絶頂 —

ちよ、まてよ...! 手はお前の商売道具だろ...!!
と思わずツッコミたくなふ一丈ですね。不折やべえ。

石見水からすぐ第一石門に行ける。岩の形、今の世のアーチという風で、穴は高さ9丈、幅8丈という大きなもの。岩の全体は高さ15丈もある。遠く石幾部からありありと見える。石幾部あたりで一本杉と言っているのが実はこの第一石門であるのだ。 — 第一石門 —

妙義山をありとあらゆる方面から登り、眺め、理角解している人のコメントですわ。どうせ画材も持って登ってるでしょう。不折やべえ。(2回目)



不折画集第二 妙義山 碓氷川より 金洞、西山(七)

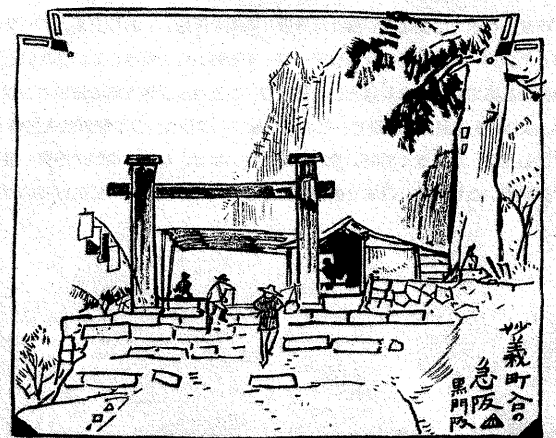
不折画集 第二 妙義山 碓氷川より 金洞、東山(七)

不折は画集も何冊か出していますが、そのうちのフが一冊まるごと妙義山の『不折画集 第二 妙義山 碓氷川』です。70~80枚にのぼる様々な角度からのゆきかわいい妙義山は妙義好きにはたまりません。

気になった方は ビクターセンター1F の妙義ギャラリーに不折画集の展示があります。また、国立国会図書館デジタルコレクションでもダウンロードできますので、是非不折の見た妙義を味わって下さい。そしてみんなであつぷりしましょう。

「不折やべえ。」

拜



不折画集 第二 妙義山 碓氷川より 白雲山麓(三)